

霧島山（新燃岳）噴火に伴う上空調査

令和7年6月22日の噴火以降、霧島山（新燃岳）の噴火活動が活発化。火口付近の状況を把握するため、TEC-FORCEアドバイザーを派遣し、ヘリ調査、及び現地調査を実施し、噴火による影響の所見等の助言を頂いた。

出席者：鹿児島大学 地頭菌名誉教授、宮崎大学 清水教授

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地調査（令和7年7月15・16日）

噴火状況

新燃岳



ヘリ調査



現地調査（浸透能調査）



記者会見



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- 細かい火山灰が堆積し浸透能が低下することで、表面流の増加により斜面の侵食が進み、霧島川への土砂流出が発生したものと推察。
- 今後も、土砂流出が継続する可能性があり、砂防堰堤の除石等により備える必要あり。
- 火山活動がいつまで継続するか不明のため、今後とも火山灰の堆積、土砂流出の監視が必要。